

# 適性検査Ⅰ

## 注 意

- 1 問題は4ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立桜修館中等教育学校

次の **文章A** ・ **文章B** を読んで、あとの問題に答えなさい。

(\*印の付いている言葉には、文章の後に〈言葉の説明〉があります。)

### 文章A

まず人がいて、自分があつて、そして言葉がある。言葉と人の係わりを言うとき、そうした順序で考えられるのが、まず普通です。ただ、言葉と人の関係について考えるなら、その順序を逆にして考えるほうがいい、とわたしは思っています。まず言葉があつて、自分があつて、そして人がいるというふうに。

この世にあつて、人にとつてなくてはならないと思えるもの、毎日の生活をささえてきたものほとんどすべてというのは、人がつくりだしてきたものです。人はさまざまなものをつくろうとしてつくりだしたし、けつしてつけれないと思われるようなものすら、しばしばつくりだします。けれども、人にとつて絶対になくはならないものというのは、必ずしも人のつくつたものでなく、言葉もそうです。

自分が生まれる前からあつて、言葉は、わたしたち自身より古くて長い時間をもっています。ですから、わたしたちは言葉のなかに生まれてくる。そして、自分たちがそのなかに生まれてきたものとも古い言葉を覚える。成長するとは、言葉を覚えるということですから、つくるものでなく、あつらえるものでない。覚えるものが言葉です。

毎日の経験を通して、人は言葉を覚えます。覚えるのは、目の前にある言葉です。自分の毎日をつつんでいる言葉です。自分がそのなかに生まれてきた言葉というものを、あるいは言葉の体系たけいというものを、自分から覚えることによって、人は大人になってゆく、あるいは

は、人間になってゆく。そういうものが、言葉です。

にもかかわらず、覚えて終わりではなく、覚えた言葉を自分のものにしてゆくということができないと、自分の言葉にならない本質を、言葉はそなえています。

言葉を覚えるというのは、この世で自分は一人ではないと知るということです。言葉というのはつながりだからです。

言葉をつかうというのは、他者とのつながりをみずからすすんで認めるといふことであり、言葉を自分のものにしてゆくというのは、言葉のつくりだす他者とのつながりのなかに、自分の位置を確かめてゆくということなのです。

人は何でできているか。人は言葉でできている、そういう存在そんざいなのだと思ふのです。言葉は、人の道具ではなく、人の素材なのだということなのです。

(長田弘「読書からはじまる」による)

### 〈言葉の説明〉

あつらえる——たのんで自分の思うようにつくらせる。

体系たけい——いろいろなものを、ある決まりで順序よくまとめたもの。

## 文章B

幼い頃から、日常生活を「翻訳」が満たしていた。家庭や学校で飛び交う複数の言語間で、時には言葉で表現する喜びに打ち震え、時には口から言葉が出てこないもどかしさに身悶えることもあった。

ある時から、言葉を吐くという何気ない些細なコミュニケーションのひとつひとつが翻訳行為なのだと思えるようになった。そこから、人の話を聞いたり、本を読んだりすることがさらに好きになった。誰が何語で話しているようと、内容そのものへの興味に加えて、\* 自分が「何を翻訳しようとしているのか」というプロセスにも関心を持つようになったのだ。

ある人が任意の言語で話している時、その人は自分の体験を通じて感じたことを、相手の知っている言葉に「翻訳」して話している。同時に、その翻訳行為から常にこぼれ落ちる意味や情緒もある。その隙間をなんとか埋めようとする仕草に、翻訳する人に固有の面白さが現れる。

わたしが学んできた数多の言語は、自分や他者の感覚を表現し、相互に伝えようとする「翻訳」の技法だった。今日わたしたちが紐解くことのできる歴史には、過去の無数の人々が発見し、\* 試行錯誤してきた翻訳の表現が織り込まれている。今、わたしたちがその知識と経験を何のために受け継ぐのかといえは、わたしは互いの「わかりあえなさをつなぐために」と答えたいと思う。異質な個人同士は、この情報社会ですますつながつていくだろう。そんな時代に生きる人間として抱く、ある種の危機感から生まれる考えかもしれない。

今日、インターネットを介して、わたしたちが見知らぬ他者と接触する機会はますます増えているが、そこでは新たな関係性が紡がれる可能性と、異なる価値観を持つ人間同士が分断される危険性の両方が見られる。しかし、この二つの動向は一見矛盾するようであり、人間の社会が新しい言語を獲得するために通過する必要なステップを共に指し示している。

(ドミニク・チェン「未来をつくる言葉  
わかりあえなさをつなぐために」による)

### 〈言葉の説明〉

身悶える——思いどおりにならなくて体をよじるように動かす。  
些細な——問題にするほどでもないちょっとした。

当人——本人。その人。

情緒——そのときそのときに起こるいろいろな感情。

試行錯誤——いろいろな方法をくり返し試みて解決に近づいていくこと。

矛盾——つじつまが合わないこと。

〔問題1〕

文章A

に人は言葉でできているとありますが、どの

ようなことですか。

文章A

の内容をふまえて、解答ら

んに当てはまるように四十五字以上六十字以内で答えま  
しょう。

人は言葉でできているとは、  
ということ。

(書き方のきまり)

- 、や。や」などはそれぞれ一ますに書きます。
- 一ますめから書き始めます。
- 文章を直すときは、消しゴムでていねいに消してから書き直  
します。

〔問題2〕

文章B

では、翻訳とはどのようなことだと言っていま

すか。解答らんに当てはまるように六十字以上七十字以  
内で答えましょう。

翻訳とはある国の言葉や文を、ほかの国の言葉や文に単純に  
かえることではなく、

(書き方のきまり)

- 、や。や」などはそれぞれ一ますに書きます。
- 一ますめから書き始めます。
- 文章を直すときは、消しゴムでていねいに消してから書き直  
します。

〔問題3〕

文章A・文章Bを読み、あなたは「言葉」を学ぶこ

ととはどのようなものだと考えましたか。また、今後の学校生活において、どのように「言葉」に向き合い、他者と関わりたいですか。それぞれの文章の内容をふまえて四百字以上五百字以内で自分の考えをまとめましょう。第一段落には、「言葉」を学ぶことについて書き、第二段落より後には、どのように「言葉」に向き合い、他者と関わりたいかを書きましよう。

（書き方のきまり）

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げで書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえません。
- 、や。や」などはそれぞれ一ますに書きます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます（ますめの下に書いてもかまいません）。
- 。と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、「」で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直します。